



# シェイクハンド

第61号  
R3.1

～静岡県訪問看護ステーション協議会便り～

なやみは半分、よろこび倍増

さあ みんなで手をつなごう!!



## 新年のご挨拶



静岡県訪問看護ステーション協議会  
会長 渡邊昌子



新年、あけましておめでとうございます。

会員の皆さまにおかれましては、新年をいかがお過ごしでしょうか。「新しい生活様式」に少しずつ慣れてこられたと思いますが、まだ多くの方が不自由さを感じていらっしゃるでしょう。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症（コロナと略）という未知のウイルスにより、日本を含む世界でパンデミックが発生し、国民の皆さまが不安の中にあつたことと思われまふ。令和3年を迎えても、コロナの終息の兆しは見えず、私たちの生活に甚大な影響を与え続けています。

昨年5月に、静岡県看護協会会員にコロナに係るアンケートによる調査を実施し、訪問看護ステーションの74事業所から回答をいただきました。その中で「身体的負担」が41%、「精神的負担」が66%と以前の業務より増加したと回答。また、相談機能が「ない」や「あつても機能していない」と回答した事業所が50%前後ありました。

また、訪問先での看護ケアの提供にあたり、感染防止対策への戸惑い、苦慮されていることや、いわれのない誹謗中傷を受けたという回答があり、胸を痛めました。

訪問看護師として、利用者・家族へ最善の看護ケアを提供している皆様の悲しさや口惜しさ、情けなさ等、やりきれない思いを感じました。これについては、当協議会でも共有し、静岡県議連、静岡県行政へ実情と再発予防策を要望いたしました。

改めまして皆様が訪問看護師として誇りと責任を持ち、利用者・家族へ最善の看護ケアの提供に尽力されていることに心から感謝と敬意を表します。

このことを通し、感染の専門家の在籍がないことや相談機能が弱いことが分かつたので、結果を踏まえ迅速かつ的確に当協議会としての役割を果たして参ります。

加えて皆様が訪問看護師として、楽しく生き生きと仕事ができ、プライベートも充実できる1年となりますように、「働きやすい職場環境」を整えるべく尽力して参りたいと思います。また引き続き、訪問看護の質向上と人材確保にも努めて参ります。

まずは、令和3年という新しい年を迎えることができたことに感謝し、期待を胸に前向きに仕事に向かう所存です。

訪問看護事業が推進できますよう引き続き皆様のご協力、ご支援をお願いするとともに、皆様のご健勝を祈念いたします。本年も、何卒よろしくお願ひいたします。



# 富士圏域での感染対策のための 訪問看護ステーション連携体制構築の取り組み

(今年度リモートで行われた東海北陸ブロック研修の中で発表しました)

訪問看護ステーションひより 多田 みゆき

新型コロナウイルス感染症の終息が見通せない中、感染対策を継続しているところですが、訪問看護ステーションで、職員に新型コロナウイルス感染症陽性事例が発生した場合、また職員が濃厚接触者と判明した場合は、保健所の指示で事業所を一時的(概ね14日間)に閉鎖することになります。

その際、利用者様への看護が滞らないよう、緊急的に別の訪問看護ステーションが対応し、訪問看護を提供できる体制の構築のため、富士圏域訪問看護ステーション(以下、STとします)で連携の取り組みをおこないました。

《目的》新型コロナウイルス感染症に伴う事業所一時停止時の連携体制構築

《事前準備》

- ・圏域の訪問看護ステーションに説明し参加STを確認し名簿作成
- ・各STで感染予防対策・対応計画・マニュアルの策定・見直し
- ・利用者へ感染予防の対策・対応について説明(資料A1・A2)
- ・利用者の連携必要度でトリアージを実施  
トリアージ基準は
  - ①訪問を休止できる
  - ②家族の協力が得られる
  - ③他サービスの代替が可能
  - ④何としても看護師が行かなければならない(医療ニーズが高い)
- ・トリアージのうち④のみを対象とする

《実施》

- ・④の利用者のみ連携体制を説明し承諾書に記入していただく(資料B)
- ・名簿で応援STを確認し、依頼する
- ・事業所休止決定時の情報提供内容
  - (1)アセスメントシート
  - (2)訪問看護計画書
  - (3)訪問看護指示書
- ・依頼のあったSTは基本断らずに引き受ける
- ・応援時の条件

- 1) トリアージ④の医療ニーズの高い利用者のみ対応
  - 2) 緊急訪問はなし。医師又は救急対応(ファーストコールは現ST)
  - 3) 必要な処置のみで退出可能
  - 4) 訪問時間は応援STの都合による(希望時間は選べない)
- ・依頼STは、事前に主治医に応援体制と応援STについて説明し、指示書を依頼し応援中は緊急訪問ができないことを伝える
  - ・担当ケアマネジャーにも応援体制と注意事項を伝える
  - ・応援STと利用者は契約書を交わし、介護給付、診療報酬は応援STで算定する
  - ・管理加算等は休止が解除された時点で、管理者間で相談する
  - ・ALS等の難病の利用者は、平時から複数のSTが関わるよう対策を検討する

新型コロナウイルスの集団発生防止にご協力をおねがいします

## 3つの密を避けましょう!

①換気の悪い  
**密閉空間**

②多数が集まる  
**密集場所**

③間近で会話や  
発声をする  
**密接場面**

新型コロナウイルスへの対策として、クラスター(集団)の発生を防止することが重要です。日頃の生活の中で3つの「密」が重ならないよう工夫しましょう。

3つの条件がそろう場所が  
クラスター(集団)発生の  
リスクが高い!

※3つの条件のほか、**共同で使う物品**には消毒などを行ってください。

厚生労働省 厚労省 コロナ 検索



(資料A1・A2) 新型コロナウイルス感染症への対策  
のお知らせとお願い

令和2年4月23日

ご利用者様およびご家族の皆様

看護リハビリケアステーション●●●●  
所長 ●●●●

### 新型コロナウイルス感染症への対策のお知らせとお願い

日頃、看護リハビリケアステーション●●●●をご利用頂き誠にありがとうございます。皆様におかれましては、今回の新型コロナウイルス感染症の拡がりをご心配されていることと思います。そこで皆様に看護リハビリケアステーション●●●●の考え方と対応、サービスを続けるための職員体制についてお知らせいたします。また、訪問にあたり皆様にお願いしたいこともお伝えします。何卒ご了承の上、ご協力いただきたくお願い致します。

**1. 看護リハビリケアステーション●●●●の方針**

本ステーションでは、できる限り通常どおりの訪問看護サービスを提供したいと考えています。しかしその際、ご利用者様やご家族の皆様が新型コロナウイルス感染症にかかる可能性や訪問看護を行う職員がかかる可能性を想定した対応をします。

- ① 訪問職員全員、毎日検温を行います。37.5℃以上の発熱やのどの痛み、咳、だるさといった症状が少しでもある場合は、新型コロナウイルス感染症の診断がつかなくても2週間の自宅待機とします。
- ② 職員の家族に発熱等の症状がある場合も同様に、症状が治まるまでの間は2週間の自宅待機とします。
- ③ 研修会を含め、多くの人が集まる会への参加はしません。必要時は、感染予防対策を行います。
- ④ 感染拡大や、学校等の休校により、出勤困難な職員が増えた場合、状態が安定されている方には訪問回数を減らす・訪問時間の短縮などのご相談をさせていただきます。
- ⑤ 職員は訪問時、手洗いを徹底しマスク着用で、場合によってはガウン・手袋を着用することもあります。
- ⑥ 職員に新型コロナウイルス感染者が出た場合は、保健所の指示に従い対応します。場合によっては事業所を閉鎖することもございます。

**2. ご利用者・ご家族様へのお願い**

- ① 職員は、訪問前にご利用者様・ご家族様が発熱等の症状がないか、確認させていただきます。
- ② ご利用者様が新型コロナウイルス感染症を疑われた場合は、主治医と相談し対応させていただきます。他の利用者様への感染を予防するため、病状によっては訪問看護を中止させていただくこともあります。
- ③ 他県よりご家族様がみえられた場合には、訪問を見合わせていただくこともあります。
- ④ ご家族様に発熱等の症状がある場合は、職員が訪問し、ご利用者様の看護やリハビリ等を実施している間は別室にて待機くださいますようお願いいたします。
- ⑤ ご利用者様・ご家族様も手洗いや咳エチケットを行い、マスクを着用していただくをお願いします。

皆様には、何卒ご了承の上、ご理解とご協力いただきたくお願い致します。

何かご不明な点がございましたらご連絡ください。

看護リハビリケアステーション●●●●  
TEL ●●●●-●●●●

(資料B) 承諾書

令和2年5月15日

ご利用者様およびご家族の皆様

看護リハビリケアステーション●●●●  
所長 ●●●●

### 一時閉鎖になった場合の体制について

日頃、看護リハビリケアステーション●●●●をご利用頂き誠にありがとうございます。今回の新型コロナウイルス感染症の広がりが一日も早く収束することを心から願っておりますが、医療機関や介護施設の休業などの情報が聞かれ、全国的にまん延している状況です。当事業所においても、職員が新型コロナウイルス感染症陽性事例が発生した場合、また職員が濃厚接触者と判明した場合は、保健所の指示をおおきながら事業所を一時的(概ね14日間)に閉鎖することになります。

その際、ご利用者様への看護が滞らないよう、緊急的に別の訪問看護ステーションが対応し、訪問看護を提供できるような体制を準備したいと考えています。

別の訪問看護ステーションには個人情報の保護の観点から守秘義務と課して、利用される場合は、ご利用者様が困らないよう情報を伝えることをご了承願います。

---

### 承諾書

私又は代理( )は、貴事業所が一時閉鎖した際には、別のステーションからの訪問を

希望しません。

希望します。その際、下記の条件により、私の個人情報を提供する事を提供することを承諾します。

1. 連携体制のある訪問看護ステーションに私の個人情報を提供する事を承諾します。
2. 利用の開始または途中で断った場合も、私は何ら不利益を被らないこと。
3. 事業所が再開した場合は、元の訪問看護ステーションを選択できること。
4. 別の訪問看護ステーションは私の個人情報と元のステーションにすべて提供すること。
5. その他、必要な主治医やケアマネジャーとの連携等は個別に取り決めること。

☆地域のST間で情報共有、連携強化を図りながら、  
新型コロナウイルスに負けることなく一致団結して  
頑張っていきましょう！





# ステーション紹介

## 東部 訪問看護ステーション椎路

鈴木 恵

こんにちは。訪問看護ステーション椎路です。

平成26年に開設し7年目となりました。小規模なステーションではありますが、看護・リハビリともに、利用者と家族の想いを受けとめ、その人らしく安心して自宅での生活が継続していけるよう支援しております。

現場では1対1、又は1対複数人の看護なので「本当にこれで良かったのだろうか」とケアや対応に悩むこともたくさんあります。そんなときはスタッフ全員で話し合いを重ね、利用者・家族により添えるよう努めています。

「あなたが来るのを待っていたよ」「また来週も待ってるね」という言葉と笑顔にはげまされ、毎日訪問しています。

これからも他職種との連携を密にし、利用者と家族の笑顔がたくさんみられるよう支援していきたいと思えます。

次は「訪問看護ステーションよろこび宮島」です。



## 中部 (株)訪問看護ステーション・スポット

石神 弘美



こんにちは、訪問看護ステーション・スポットです。当ステーションは平成28年2月に開設し、29年4月から1年2か月休止後、平成30年6月15日から再スタートしました。現在職員は看護師正職員4名、パート1名、理学療法士1名で活動しています。理念は「一人ひとりに寄り添い、24時間安心して在宅生活を送れるよう支援する」です。一番



安心して過ごせるご自宅で、穏やかな毎日を過ごすためのお手伝い、生活する上で『困った』がないようにしていきたい!』とと思っています。「訪問していく上で必要なことは何でもやっていこう!』と積極的な活動を目指しています。今年度は看護協会の出向事業で、2名の病院看護師の出向を4か月半受け

入れました。訪問看護を実体験し、生活の中での看護を知る良い機会となりました。「ときどき入院、ほぼ在宅」訪問看護への期待は増してきます。多職種連携を密にし、暮らしやすい生活が出来るよう努めていきます。

次は「訪問看護ステーションいちご」です。

## 西部 訪問看護ステーション中島

井上 充代

当事業所は社会福祉法人「七恵会」を母体とし、ユニット型介護福祉施設やショートステイ・デイサービス・保育園などの事業所が併設されており、0歳から100歳までの様々な世代の方たちと接することが出来ます。多岐にわたって地域と関わりを持ち、多職種と常に連携して業務にあたっています。

訪問看護では、高齢者・癌末期・障害者や精神疾患の方を積極的に訪問しています。また、同一敷地内のサービス付き高齢者向け住宅と連携し、定期巡回随時対応型訪問介護看護も行っています。

現在スタッフは看護師7名（常勤3名・非常勤4名）、事務1名です。初めて訪問看護を経験する者が多く、日々切磋琢磨しながら頑張っています。

入職半年の職員は「最初はやらなければならない事をこなすだけで精一杯でしたが、最近は少しずつ慣れていく毎に『もっとこうすれば』『ああすれば良かったのでは』と反省することも多くなってきたように思います。しかし、訪問先で出会った利用者や家族の温かさに触れ、笑顔で『ありがとう』『待っていたよ』と声をかけていただくことが増え、私にとって大きな励みとなりました。また、疑問や悩んだときはチームでディスカッションし、次の看護に生かしていくことで利用者にとってより良い方法を模索出来ることもやりがいとなっています。」

と話しました。

また、入職3年目の職員は「限られた時間の中で利用者のその人らしい生活が継続できるよう支援しています。訪問時の状況に応じてケアの内容を変更するなど、自分一人で判断しなければならない場面が多々あり、次回の訪問まで安心して過ごせるようお手伝いをさせていただくことに訪問看護の奥深さを感じています。」等在宅ならではのケアの面白さを実感しています。

今後も利用者が住み慣れた地域で、その人らしく安心して生活が送れるように知識や技術を深め、やさしい手と心でサポートできるように心がけていきたいと思います。

次は「訪問看護ステーション上島」です。





# リンパドレナージ研修に参加して

ニチイケアセンター南浜松 訪問看護ステーション 武田 博子

## リンパドレナージ研修

日 時：令和2年10月11日  
 場 所：アクトシティ浜松 研修交流センター  
 62研修交流室  
 研修参加者：30名  
 内 容：山梨県立大学看護学部 成人看護学准教授  
 前沢美代子氏に「リンパ浮腫の治療・ケア」  
 をテーマに講義・実習していただきました。

私は常日頃、浮腫が治らず困っている利用者が多く、何とかしてあげたいと思っていました。今回リンパ浮腫についての知識を深めたいと思い、リンパドレナージ研修を受講しました。

リンパ浮腫の病態・治療・ケアについての講義とケアの実技を一日で学びました。講師の前沢美代子先生は、がん看護専門看護師、医療リンパドレナージセラピストとして病院や訪問看護の現場で活躍されている方でした。先生が関わった患者さんとのエピソードは、とても興味深く理解も深まりました。

実技ではリンパドレナージの演習を行いました。先生は実際に行いながら丁寧に指導してくださいました。圧と流す方向が大事で、なでるような力加減でゴールの排液リンパ節を目指して一定の方向へ流すことを学びました。手を密着させ、ゆっくり相手のペースに合わせてなでるような圧でやさしくさすというのは、行ってみるとなかなか難しかったです。

リンパドレナージは、オキシトシンというホルモンが分泌されて幸せな気持ちを感じ、痛みや不安の緩和・免疫力アップや余命が延びる効果があるそうです。8分以上のリンパドレナージは受けた側だけでなく、行った側にもオキシトシンが分泌され、お互いに幸せを感じられることを知り魅力を感じました。

リンパ浮腫は進行しやすく完治は難しいため、正確な診断と治療が必要で、早期発見と日々のスキンケアを実行して症状悪化を防ぐことが大切だと学びました。



今回の研修を通して、リンパ浮腫が疑われる場合には、主治医と連携しリンパ浮腫外来などの専門的ケアの情報提供が大切だと分かりました。また治療中は、不安や苦しみを傾聴しながら気持ちに寄り添ってケアや療養相談を行っていく必要があると感じました。

今回学んだことは、職場でも勉強会を開き共有することができました。

訪問看護師として5年目になりましたが、まだまだ知らない知識や技術、現状や環境がある事を日々感じています。幅広い疾患や病態の方がいるため、積極的に知識や技術を学び、経験を積んで成長していきたいと思います。





## 西部フォーラムに参加して

訪問看護ステーション住吉 山口 美津子

### 在宅ケア普及啓発県民フォーラム

日時：令和2年10月31日

場所：浜松市地域情報センター（浜松市中区）

参加者：25名

内容：落語家立川談志氏を父に持つ松岡弓子氏を講師に、自分らしい最期を迎えるためのヒントを考える講演会

3月に立川談志さんの長女 松岡弓子さんをお迎えし、西部支部の在宅普及啓発 県民フォーラムを開催する予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い開催ができなくなりました。今回、感染対策を万全にし、実施できたことを嬉しく思います。

弓子さんは、立川談志さんの最期の時期を家で介護されており、その時の様子を「ザッツ ア プレゼンティ」の本にまとめられており、その中の話を中心にお話してくださいました。

談志さんは2008年5月にのどにポリープができ、喉頭がんと診断されています。声帯の切除をすすめられていましたが、嘶家として声を失うことのほうが辛いとおっしゃって、声帯切除をしないと選択されたそうです。

2011年3月6日の高座（談志さん最後の高座となりました）の後、呼吸苦が出現し、気管切開を実施されています。「家で過ごしたい」というご本人の希望もあり、入院中に吸引などの医療処置の指導を受け、訪問看護のサービスを導入し退院しました。談志さんの妻、ご長男、弓子さんのお友達、弓子さんの4人が交代で、必ず談志さんのそばにいられるように仕事の調整をされていたそうです。

入浴については、初めは訪問入浴を利用されたそうですが、ご本人が「訪問入浴は嫌だ」とおっしゃって、弓子さんが気管切開部に水が入らないように注意しながら家のお風呂で介助されたそうです。「まさか自分が父親の陰部を洗うことになるとは思わなかった」と話されました。

睡眠薬を何度も飲みたいと言う談志さんと、たくさん飲むと身体に悪いのではと思うご家族の葛藤。

気管切開からの出血があり病院に急遽行くなど、毎日いろいろなことがあったそうです。破天荒なイメージがある談志さんですが、ご家族のことをとても愛されていた方で、最期に近づく頃ご家族一人ひとりに一言ですが、メッセージを残されたそうです。「ご家族と共に家でだからこそ」大切な時間、幸せな時間を過ごされたのだと思いました。

10月末には状態が悪化し昏睡状態で再入院され、11月21日にご家族に見守られながら永眠されました。

お話を伺った後には、実際にご家族を介護されている方、医療職の方から質問がありました。その中で「介護されていていろいろ悩むことがあったと思います。今 人生会議と言われていますが、最期をどのように過ごすのかの話をされていませんか？」という質問がありました。弓子さんは「考えられない。最期までいろいろ悩んでいた。今もあの時にこうすればよかった。と思うこともある。話もしなかったし、決められないと思う」と話されていました。会場の方々も「人生会議」という言葉を知らない方が多く、私たち医療職にはACPについて関わることもあり身近になっていますが、一般の方にはまだ普及していないのだと思いました。

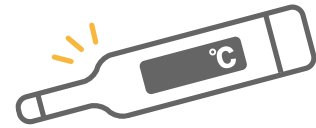
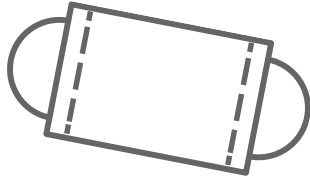
一生懸命介護されていたためか、9年経ってもつい最近のことのように時々涙ぐまれながらお話されており「談志さん、ご家族とも幸せな時間だったと思います」と声をかけさせていただきました。





## 研修のお知らせ

受講者の皆様には新型コロナウイルス感染症対策としてマスクの着用、手指消毒、検温へご協力を頂きありがとうございます。令和2年度の研修も残り少なくなりました。皆様のご参加をお待ちしております。



### ◆訪問看護技術向上研修◆

日時：令和3年2月19日(金) 18:00~20:00

会場：中部ふくしあ会議室

テーマ：ストマケアについて

講師：中田博子氏

(中東遠総合医療センター 皮膚排泄ケア認定看護師)

※東部、中部は募集を終了しました。



### ◆認知症訪問看護研修◆

日時：令和3年2月6日(土)、2月7日(日) 10:00~16:00

会場：シズウェル601会議室

テーマ：1日目は認知症の現状、認知症と地域連携、認知症の方への対応について

2日目は認知症の診断と治療、認知症ケアの実際について

講師：静岡県健康増進課地域包括ケア推進室

玉井亜弥子氏(静岡市立清水病院認知症疾患医療センター 精神保健福祉士)

宗像 倫子氏(総合病院聖隷浜松病院 老人看護専門看護師)

小西 高志氏(静岡赤十字病院神経内科 副部長)

佐々木卓子氏(湖山リハビリテーション病院 認知症看護認定看護師)

※定員になり次第締め切りとなります。東部、西部会場の研修は既に終了しております。

## 編集後記

新年あけましておめでとうございます。今年は丑年、編集者2名が歳女です！

もお~~コロナはうんざり。今年は明るい年になるといいですね。



## シェイクハンドNo.61

2021年1月発行

発行所 一般社団法人 静岡県訪問看護ステーション協議会

〒420-0839

静岡市葵区鷹匠3丁目6番3号

静岡県医師会館4階

Tel 054-297-3311

Fax 054-297-3312

e-mail sizuokahoumonst@cy.tnc.ne.jp

発行人  
編集者

渡邊 昌子

木原 裕美(医療法人社団 静岡健生会) 東部

原 とのこ(訪問看護ステーションあおむし) 中部

東 ゆり(訪問看護ステーションあすなろ) 西部